

1 飼育いのししへの CSF（豚熱）ワクチン接種の試みと課題

山城家畜保健衛生所

○龍村 順子 一星 暁美

- 5 【はじめに】CSF（豚熱）は平成 30 年 9 月に岐阜県で発生、その後 8 県に感染拡大。令和元年 10 月に国内で CSF 予防的ワクチン接種が開始。京都府は令和元年 12 月に CSF ワクチン接種推奨地域に指定、接種開始。今回、飼育いのししのワクチン接種を実施したので概要報告。【管内の豚等の飼養状況の特徴】管内に養豚農家はなく、愛玩用や試験研究など様々な目的、形態で 17 戸 49 頭が飼育。うち、いのししは 6 戸 9 頭（令和 2 年 4 月現在）。
- 10 【いのししへのワクチン接種方法における工夫】いのししは、豚と異なり運動能力や警戒心が高く、接種に危険が伴うと判断。人といのしし両者の安全確保を考慮し、遠隔でも接種可能とする連続注射器を装着した注射補助具を自作。また、アライグマ用のスクイズケージを準備、接種を試みた。また、油圧ショベルにより飼育檻を傾けることでいのししの動きを抑制する、作業者がコンパネにより姿を隠しながら接種するなど接種方法にも工夫
- 15 を重ね、補助具を用いて 6 頭接種。幼獣 2 頭はスクイズケージに追い込み接種、飼育者にきわめて懐いている 1 頭については豚と同様に接種。【まとめ】職員の創意工夫、飼育者の協力の下、全ての飼育いのししにワクチン接種ができたが、次回接種時は、成長による動きの違いや注射に対するさらなる警戒心の増大が予想される。いのしし、接種者への安全に配慮するため、飼育いのししについても、経口ワクチン接種の検討が必要と考える。